

症例報告

粘表皮癌と診断された早期食道癌の1切除例

国立病院四国がんセンター外科

大田垣 純 多幾山 渉 青儀健二郎
村上 正和 高嶋 成光
同 病理
土井原博義 万代 光一 森脇 昭介

A CASE OF EARLY ESOPHAGEAL CANCER DIAGNOSED
AS MUCOEPIDERMOID CARCINOMA

Sunao OTAGAKI, Wataru TAKIYAMA, Kenjiro AOGI,
Masakazu MURAKAMI and Shigemitsu TAKASHIMA

Department of Surgery, Shikoku Cancer Center Hospital

Hiroyoshi DOIHARA, Koichi MANDAI and Shosuke MORIWAKI

Department of Pathology, Shikoku Cancer Center Hospital

索引用語：早期食道癌，食道粘表皮癌

はじめに

食道に原発する粘表皮癌は本邦では葛西らによりはじめて報告されたが¹⁾，その後の報告例は少なくまれである。最近，われわれは切除標本にて粘表皮癌と診断した早期食道癌症例を経験したので報告する。

症 例

患者：44歳，男性。

主訴：食事中のしみる感じ。

家族歴：特記すべきことなし。

既往歴：41歳，42歳に肺炎で入院。

飲酒歴：酒1.5合/日23年間。

喫煙歴：30本/日25年間。

現病歴：昭和63年夏頃より食事中に背中にしみる感じがあったが放置，同年11月より心窩部痛あり，某院を受診し食道に異常を指摘され当院を受診した。

入院時現症：体格，栄養中等度，貧血，黄疸なく，胸部，腹部に理学的に異常所見はなく，体表リンパ節は触知しなかった。

食道造影 X 線検査所見：第2斜位では胸部中部食道に正面視される長径2cmの辺縁の比較的明瞭な隆起性病変を認めた。第1斜位では壁の不整像として認

めたが，充満像では壁の硬化像はなかった（図1）。

内視鏡所見：切歯列より33cmの部位に周囲粘膜との境界が比較的明瞭な，発赤した表面顆粒状の扁平な隆起性病変を認め，ルゴール染色によりこの病変は不染域となった（図2）。生検ではGroup Vで中分化型扁平上皮癌と診断した。

胸部 computed tomography 所見：全食道を通じて明らかな壁の肥厚や腫瘤影はなく，リンパ節の腫大も認めなかった。

腹部超音波所見：異常所見なし。

血液生化学検査所見：血清 carcinoembryonic antigen (以下 CEA) 値が7.8ng/ml と軽度高値を示した以外には異常は認めなかった。

手術術式および所見：右第5肋間にて後側方開胸した。漿液性の胸水を少量認めるも胸膜播種はなかった。食道には腫瘤を触知せず，外膜への浸潤も認めなかった。胸部食道全摘，R₃のリンパ節郭清を行った。再建には胃管を用い，後縦隔経路に頸部食道・胃管吻合を行った。食道癌取扱い規約²⁾上，肉眼的にはPl₀，M₀，A₀，N₀，進行度Iと診断された。

切除標本：食道胃接合部より7cm口側に2.6×0.9cmの境界明瞭で周辺は正常上皮で覆われ，中心は凹凸不整なびらん性変化を伴う軽度の隆起性病変を認め，肉眼的には表在隆起型食道癌と診断された（図3）。

<1989年7月10日受理>別刷請求先：大田垣 純
〒790 松山市堀之内13 国立病院四国がんセンター
外科

図1 食道造影 X 線検査。胸部中部食道に長径2cm の隆起性病変を認める (矢印)。

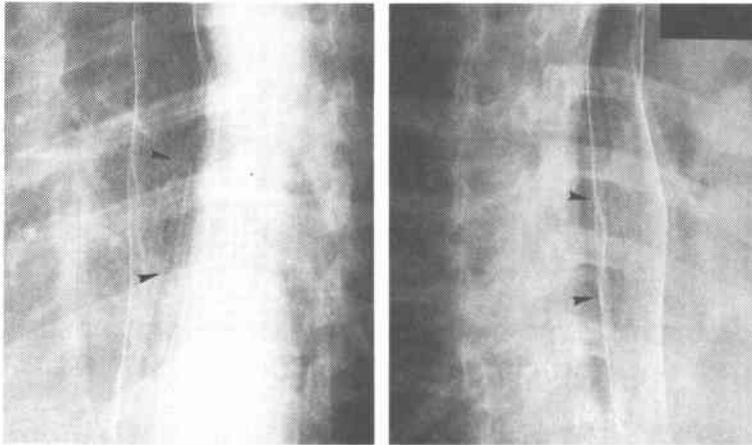


図2 内視鏡所見。切歯列より33cm の部位に病変を認める。ルゴール染色では病変は不染域となる(下)。

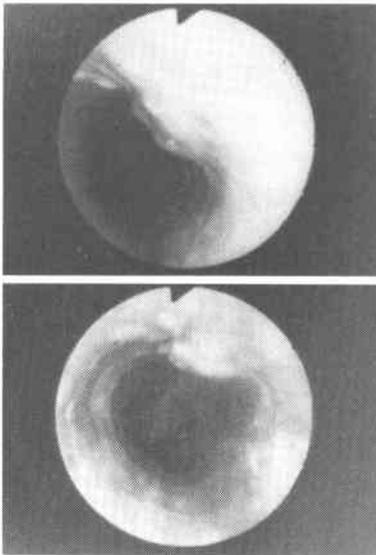


図3 切除標本写真。食道胃接合部より7cm 口側に病変を認める (矢印)。

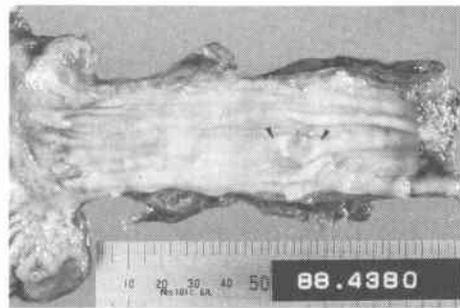
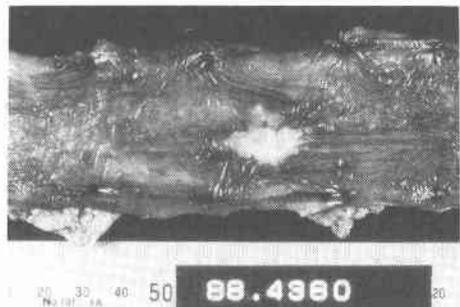


図4 切除標本写真。ルゴール染色病変では中心部が不染域となる。



ルゴール染色では病変の中心部が不染で、周囲は淡く染まり粘膜下への浸潤が示唆された(図4)。

組織学的所見：粘膜固有層から粘膜下層を中心に比較的小型の腫瘍細胞が大小の胞巣を形成して増殖するが、固有筋層には浸潤していなかった。病巣の口側および肛門側はいずれも正常な食道扁平上皮に覆われていた。充実性配列をする扁平上皮癌様の細胞の間に腺様構造を多数認め、腺腔内には粘液様分泌物を認めた(図5, 6)。PASおよびalcian blueによる二重染色で粘液様分泌物は陽性であった(図7)。また、酵素抗

体法によるCEA染色では扁平上皮様の部分と腺様構造のいずれの部分も陽性であった(図6)。以上の組織所見より粘表皮癌と診断した。深達度はsmで、リンパ節転移はなく進行度0、早期癌であった。術後は合併症もなく順調に経過した。

図5 病理組織像。腫瘍には扁平上皮構造と腺様構造を認める。H-E染色, ×100

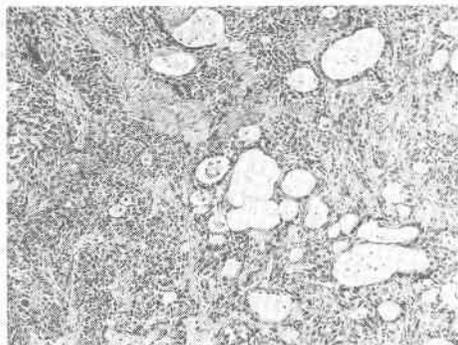


図6 病理組織像。腫瘍の線様構造部分。H-E染色, ×200

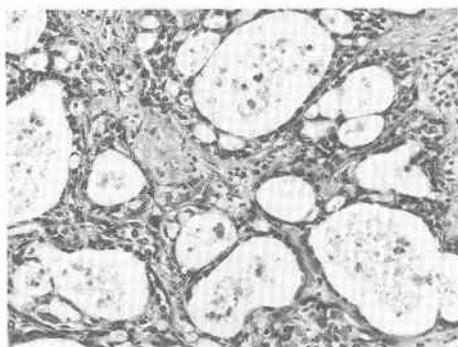
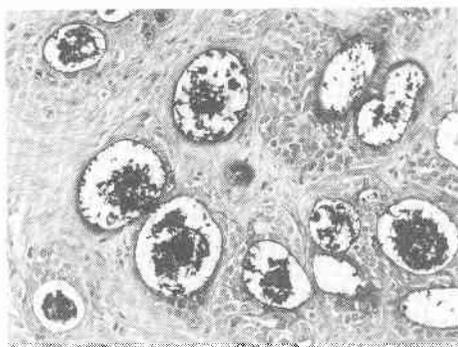


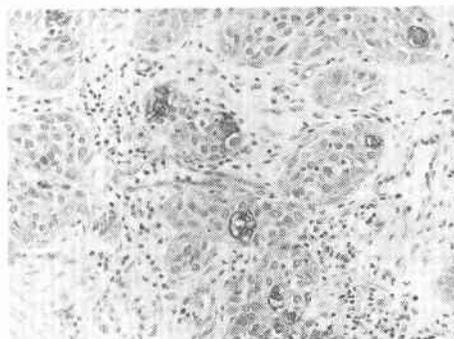
図7 病理組織像。腺腔内にはPASおよびAlcian blue 陽性の粘液様分泌物を認める。×200



考 察

粘表皮癌は扁平上皮成分, 粘液産生成分, さらにこれらの中間型の細胞成分が種々の比率で見られるものと定義され³⁾, 主に唾液腺より発生するが, 気管支, 膀胱, 肛門, 肝, 子宮頸部などの報告がある。食道に発

図8 病理組織像。扁平上皮様の部分と腺様構造のいずれの部分も CEA 染色陽性である。×300



生することはまれで, 本邦におけるその発生頻度は Suzuki らの食道悪性腫瘍切除例11,783例の集計では10例(0.1%), 同じく剖検例4,995例の集計では41例(0.8%)であり⁴⁾, 欧米では Postlethwait ら⁵⁾は0.3%, Turnbull ら⁶⁾は0.05%と報告している。

粘表皮癌の食道における発生母地は口腔後壁大唾液腺とともに pharyngeal entodermal origin である粘膜下の食道粘液腺およびその導管と考えられているが⁷⁾, Barrett 食道より発生したとの報告もある⁸⁾。また, 葛西らは類表皮癌における1つの特異的な化生であると述べている¹⁾。

食道癌の中で扁平上皮成分と腺成分の混在したものは, 食道癌取扱い規約では腺表皮癌と粘表皮癌に分類されているが, 粘表皮癌は腺表皮癌の中に入れて分類しているものと⁹⁾, 区別して分類しているものがあり¹⁰⁾, 用語的または病理組織学的に多少の混乱がみられている。

本邦での食道原発の粘表皮癌症例は本症例を含めて10例が報告されている(表1)。これらの症例について検討してみると, 年齢は44歳から73歳で平均年齢61歳, 性別では男性6例(60%), 女性4例(40%)であった。発生部位は胸部中部食道9例(90%)で, 胸部下部食道1例であった。肉眼的所見では潰瘍型が7例(70%)と多く, 他は隆起型であった。また, 8例が単発性であったが, 多発例は2例で, うち1例は多発癌の1つが粘表皮癌であった。これら症例のうち4例が非腫瘍性扁平上皮に覆われた部分をもつ粘膜下腫瘍の形態をとり, その発生母地が粘膜下層にあることが示唆された。早期癌は本症例のみで他はいずれも進行癌であった。8例に対し手術が行われており, 放射線治療1例, 無治療1例であった。本邦では長期生存例の報告はな

表1 本邦における食道粘表皮癌報告例

報告者	年齢	性	部位	肉眼所見	治療	予後
葛西ほか ¹¹⁾	58	男	中部	潰瘍型	手術	生存 9か月
西家ほか ¹²⁾	67	女	中部	潰瘍型	手術	不明
Osamuraほか ¹²⁾	53	女	中部	潰瘍型	放射線治療	死亡 3か月
Katoほか ¹³⁾	73	男	中部	潰瘍型	無治療	死亡 1か月
江本ほか ¹⁴⁾	73	男	中部	隆起型	手術	生存 9か月
本島ほか ¹⁵⁾	53	男	中部	潰瘍型 ~隆起型	手術	死亡 9か月
Matsufujiほか ¹⁶⁾	66	女	中部	潰瘍型	手術	生存1年5か月
Takuboほか ¹⁷⁾	55	男	中部	隆起型	手術	死亡 8か月
梅枝ほか ¹⁸⁾	72	女	下部	潰瘍型	手術	生存 9か月
自験例	44	男	中部	隆起型	手術	生存 3か月

く、非切除2例を含む4例が1年以内に癌死しており、扁平上皮癌同様その予後は不良であると考えられた。

診断方法は、通常の食道癌と同様であるが、術前の生検では本症例を含めほとんどの症例が扁平上皮癌と診断されていた。確定診断は切除標本、あるいは剖検によってなされており、術前に正確な組織学的診断を行うことはかなり困難なようである。

食道癌における血清CEAの陽性率は23~46%であり¹⁹⁾、診断的意義は少ない。しかし、食道原発の粘表皮癌ではTakubo¹⁷⁾、Pascal⁹⁾らの症例でもCEAが証明されており、気管支原発の粘表皮癌ではCEA陽性で血清CEA値が臨床経過に相関することが報告されている²⁰⁾²¹⁾。本症例でも術前CEAが軽度高値を示し、術後正常化し、切除標本でCEAが陽性であったことから、粘表皮癌とCEAの関連が示唆された。

結 語

食道の扁平上皮癌と術前診断し手術を施行し、切除標本で組織学的に粘表皮癌と診断された44歳男性の早期食道癌症例を経験したので、若干の文献的考察を加え報告した。

文 献

- 1) 葛西森夫, 嶋村信光: 中部食道に原発した腺類癌, 腺癌の各1例. 癌の臨 13: 700-704, 1967
- 2) 食道疾患研究会編: 食道癌取扱い規約, 第5版, 金原出版, 東京, 1976
- 3) Thackray AC, Lucas RB: Tumors of the major salivary glands. Atlas of Tumor Pathology. Second Series. Fascicle 10. Armed Forces Institute of Pathology, Maryland, 1974, p69-80
- 4) Suzuki H, Nagayo T: Primary tumor of the

esophagus other than squamous cell carcinoma -Histologic classification and statics in the surgical and autopsied materials in Japan. Int Adv Surg Oncol 3: 73-109, 1980

- 5) Postlethwait RW: Malignant tumors other than squamous cell carcinoma. Surgery of the Esophagus. Appleton, Century Crofts, New York, 1979, p415-438
- 6) Turnbull AD, Rosen P, Goodner JT et al: Primary malignant tumors of the esophagus other than typical epidermoid carcinoma. Ann Thorac Surg 15: 463-473, 1973
- 7) Kay S: Mucoepidermoid carcinoma of the esophagus. Report of two cases. Cancer 22: 1053-1059, 1968
- 8) Pascal RR, Clearfield HR: Mucoepidermoid (adenosquamous) carcinoma arising in Barrett's esophagus. Dig Dis Sci 32: 428-432, 1987
- 9) Azzopardi J, Menzies T: Priary esophageal adenocarcinoma. Br J Surg 49: 497-506, 1962
- 10) Weitzner S: Mucoepidermoid carcinoma of esophagus. Report of a case. Arch Pathol 90: 271-273, 1970
- 11) 西家 進, 竹田 一, 郡 大裕ほか: 稀有なる食道癌 mucoepidermoid carcinoma の1例. 癌の臨 22: 606-610, 1976
- 12) Osamura Y, Sato S, Miwa M et al: Mucoepidermoid carcinoma of the esophagus. Am J Gastroenterol 69: 467-470, 1987
- 13) Kato H, Iizuka T, Watanabe H et al: Primary adenocarcinoma of the esophagus. Report of six cases. Jpn J Clin Oncol 10: 301-310, 1980
- 14) 江本 勲, 千原龍夫, 玉井 允: 組織型の異なる食道多発癌の1例-扁平上皮癌と mucoepidermoid carcinoma-. 癌の臨 28: 1754-1757, 1982
- 15) 本島 梯司, 鍋谷欣市, 福住直由: 多発性粘表皮癌と扁平上皮癌が衝突してみられた食道癌の1例. 杏林医会誌 16: 407-414, 1985
- 16) Matsufuji H, Kuwano H, Ueo H et al: Mucoepidermoid carcinoma of the esophagus. A case report. Jpn J Surg 15: 55-59, 1985
- 17) Takubo K, Takai A, Yamashita K et al: Carcinoma with signet ring cells of the esophagus. Acta Pathol Jpn 37: 989-995, 1987
- 18) 梅枝 覚, 森 孝郎, 登内 仁ほか: 食道原発の mucoepidermoid carcinoma の1例. 日消外会誌 20: 2201-2204, 1987
- 19) 黒木 政秀, 松岡雄治: Carcinoembryonic antigen. 漆崎一朗, 服部 信編. 腫瘍マーカー. 医学書院, 東京, 1985, p15-25
- 20) 山脇 功, 安井修司, 川上雅彦ほか: 気管支の mucoepidermoid carcinoma の1例. 肺癌 28: 113-118, 1988
- 21) 松島敏春, 原 宏紀, 矢木 晋ほか: 増悪, 軽快の指標としてCEAが有用であった mucoepidermoid carcinoma の2症例. 気管支学 16: 261-267, 1984